

白神通信



【世界遺産の森の向こうに岩木山】提供：白神山地世界遺産地域巡視員 後藤 千春

[contents]

- ◆令和4年度「中・大型哺乳類調査」「ニホンジカ生息調査」を終えて・・・P2
- ◆地域より「白神の森に抱かれて」
白神山地世界遺産地域巡視員 後藤 千春・・・P5
- ◆地域より「白神の思いで」
白神山地世界遺産地域巡視員 鎌田 考子・・・P7

藤里森林生態系保全センター

令和5年3月27日 No.107

令和4年度

「中・大型哺乳類調査」

「ニホンジカ生息調査」を終えて

中・大型哺乳類調査

中・大型哺乳類調査については、これまでも白神通信で情報発信してきましたが、令和4年度の調査結果についてとりまとめましたので概要等についてお知らせします。

令和4年度は、白神山地世界遺産地域周辺(能代市・藤里町・八峰町)の国有林に4月下旬から12月上旬まで計26台のセンサーカメラを設置し、中・大型哺乳類の生息調査を実施しました。撮影された哺乳類及び鳥類は合わせて、25種類、延べ2,534個体となりました。ここで延べ撮影数トップ5を発表します。

第1位は、22箇所延べ657頭撮影された「タヌキ」です。タヌキは令和2年の調査から3年連続の1位です。タヌキは夜行性と言われており、撮影された時間は18時から4時までの人目に付きにくい時間帯に多く撮影されています。

第2位は、18箇所延べ601頭撮影された「キツネ」です。撮影された時間はタヌキと同様に、17時から5時までの人目に付きにくい時間となっており、3市町のなかでも八峰町で多く撮影されています。

続いて第3位は、延べ200頭撮影された「ツキノワグマ」です。撮影箇所は今回の調査では最も多い25箇所です。ツキノワグマも3年連続で3位となっています。撮影時間帯は人目に付きにくい時間帯が多かったとはいえ、1日を通して撮影されていることから、時間帯に関係なく注意が必要です。

第4位は、16箇所延べ151頭撮影された「ハクビシン」です。外来種であるハクビシンの生息数が増えると、白神山地世界遺産地域の生態系への影響も懸念されるため、今後も注視していく必要があります。

第5位は、20箇所延べ121頭撮影された「カモシカ」です。カモシカは、特別天然記念物に指定されているウシ科の動物です。時間帯は、昼夜関係なく撮影されています。

本調査で撮影された動物の種類や頭数、時間や場所などを表やグラフでわかりやすくまとめた資料を藤里森林生態系保全センターのホームページで公開していますので、ぜひご覧下さい。

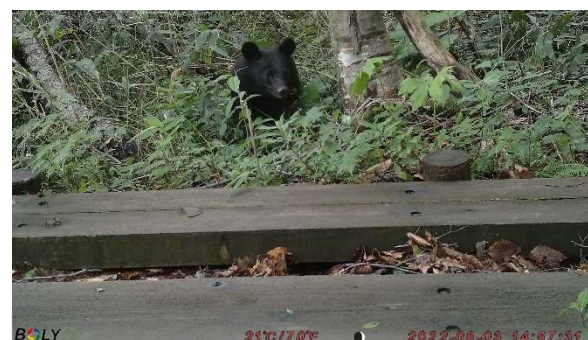
(<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/huzisato/zyouhou/tyousa.html>)



延べ撮影数3年連続1位のタヌキ



延べ撮影数2位のキツネ



延べ撮影数3年連続3位のツキノワグマ



延べ撮影数 4 位のハクビシ



延べ撮影数 5 位のカモシカ

ニホンジカ生息調査

ニホンジカの生息状況調査は、中・大型哺乳類調査と兼ねて行っており、調査箇所も同様に国有林内26箇所となっています。また、令和3年度からは能代市及び八峰町のご協力の下、白神山地周辺の民有林に所有者様のご承諾を得たうえでセンサーカメラを設置し、ニホンジカの調査を実施しています。令和4年度夏期の国有林、民有林の「ニホンジカ生息状況調査結果」についてお知らせします。

1 国有林での調査結果について

令和4年度は、6月28日～12月11日にかけて延べ40頭のニホンジカが15箇所撮影され、そのうちオス34頭、メス2頭、性別不明が4頭という結果となりました。

主に撮影されたのは八峰町内の国有林で、9月下旬から11月上旬の期間に集中していました。ニホンジカの出産時期は5～7月で、生まれた翌年に1尖の角が生え、その後満4歳になるまで毎年1本(尖)ずつ角が枝分かれしていきと言われています。令和3年度調査では角が1尖の若いオスが多く撮影されましたが、令和4年度に撮影されたオスの約半数は、角が枝分かれしたオスとなりました。令和3年度に確認されたニホンジカが越冬した個体なのか、他の地域から侵入した個体なのかは不明ですが、定住の可能性もあるため、今後も監視していく必要があります。



ブナ長期変動調査において

三蓋沢で撮影されたオス



令和3年度に撮影された角が1尖(せん)の若いオス



令和4年度に同じ場所で撮影された角が枝分かれしたオス

2 民有林での調査結果について

民有林では、令和4年4月28日～同年12月12日にかけて、能代市に2台、八峰町に7台、合計9台のセンサーカメラを設置し、ニホンジカの生息状況調査を行ってきました。設置箇所は令和3年度に引き続き設置した箇所や、能代市及び八峰町よりニホンジカに関する情報提供された箇所付近の山林や林道となります。

まず、能代市では、「ニホンジカによると思われる農作物の被害があった」との情報提供を基に、付近の林道沿へ2台設置しました。その結果、オスが14頭、性別不明が1頭、延べ15頭のニホンジカが撮影され、そのうち延べ13頭は、白神山地世界遺産地域から約4.5 kmと比較的近い箇所であり、注視が必要です。

八峰町に設置した7台からは、オス15頭、性別不明1頭、延べ16頭が撮影されました。八峰町沿岸では、令和3年の冬期調査で2箇所から延べ3頭の撮影があったことから、令和4年の夏期については定住も視野に入れ継続して設置したところ、延べ12頭が撮影されたことから、定住している可能性も否定出来ない箇所となっています。ニホンジカの生息調査では、関係市町との連携による監視が必要となるため、今後も情報共有を徹底し生息状況の把握に努めて参りたいと考えています。



能代市の民有林で同時に2頭撮影（いずれもオス）



八峰町の民有林で撮影されたオス

地域より

白神の森に抱かれて

白神山地世界遺産地域巡視員 後藤 千春

((一社) 白神コミュニケーションズ代表理事)

縁あって当地に根を張り 14 年目となりました。家内が能代市出身ということもあって、白神の山や溪で遊ばせてもらい続けて 30 余年、この地を終の棲家にするだけでなく、これだけ深く白神をはじめ県内外の山を仕事の場として関わらせていただく第 2 の人生は、都会の山好きには羨ましがられる暮らしに映っていることでしょう。

いったい何を生業にしているの？ とよく尋ねられます。

白神山地及び周辺地域の環境保全と観光振興を両立させる、と定款の最初に記している社団法人を設立して今年で10年。

山に関して出来ることは何でもやります、誰もやらないことをやります、誰にも出来ないことをやります、をモットーに、能代駅前に店舗兼事務所を構えて、白神山地の水にこだわったコーヒーや軽食の提供、登山ガイド、調査・研究・コンサルタント、ガイドの育成、イベント開催、子ども向けの環境教育、遺産地域の巡視、写真撮影、はたまた登山道整備でスコップや鍬を持ち・・・。

数年前、「白神森林講座」で藤里駒ヶ岳をガイドした時、山頂での休憩中ふと空を見ると、イヌワシの幼鳥(その時は判りませんでした)が飛翔していました。

この10数年でさまざまな環境の変化、(例えばカモシカやウサギを以前ほど見かけなくなった、ナラ枯れが多く目につくようになった、気候が荒っぽくなった、など白神に限らずですが)を目にしてきましたが、地元でイヌワシが生息(全国で500羽程度か)している環境があることを誇りに思い、今の時代、この小さな島国のほんの一部分にすぎない遺産地域だけでも、人間の文明とは無縁の状態でも未来永劫残していきたいと考えています。

年に数回、北アルプスの山もガイドするのですが、無機質で緊張感のある風景の中から有機的で潤いのある白神の森へ帰ってくると、心の底か



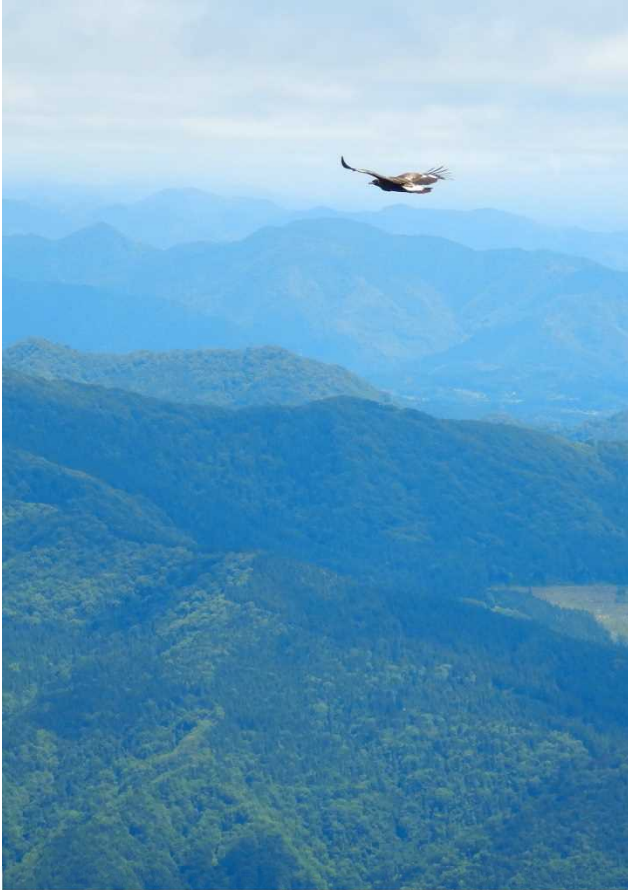
核心地域の巡視 粕毛川源流三蓋沢にて



二ツ森登山道にて 筆者 後藤千春

いや
ら癒されるのが実感できます。

それを伝え、創り、繋げることを社是^{しゃぜ}に掲げ、もう少し頑張ってみようかな。
夢は壮大に、形にするのは足元から、知的好奇心は死ぬまで持ち続けて。



藤里駒ヶ岳上空を飛翔するイヌワシ幼鳥



紅葉の藤駒ガイドのーコマ



白神森林講座の様子 田苗代湿原にて^{たなしろ}



県主催の環境教育事業
「白神体験塾」のーコマ

地域より

白神の思いで

白神山地世界遺産地域巡視員 鎌田 考子

(秋田白神ガイド協会会員)



小岳山頂から望む核心地域

私と白神の出合いは小学校低学年の時の事です。

家で短角牛^{たんかくぎゅう}の種牛を飼っていたので、春になると放牧のため、岳(ダケ)と呼ばれていた常磐林道^{とぎわ}を歩いて放牧地まで行きました。その当時は、今では想像できない位山々は皆伐されていて「ハゲ山」となっていました。なぜ、こんな状態なのか理解できず、ただ不思議な感情と、雪と水ばしょうと緑(ブナ)の美しさが心に残っていました。

巡視員による合同パトロールの思い出は、平成23年度の7月24日の源流部大滝コースと同年10月28日の次郎左衛門岳コースの巡視です。大滝コースでは、山を降りてきた釣人2名と遭遇^{そうごう}して、一時騒然となりましたが、とても印象に残った出来事です。次郎左衛門岳は、山頂から見えるコアゾーンは奥深く、なかなか近くで見ることが出来ない焼山も間近に見えました。今年度は、白神山地世界遺産登録30周年ということで、合同パトロールで遺産地域の沢巡視も復活させてほしいと思います。今年是小岳に行けるようなので、とても楽しみにしています。

この先何年巡視を続ける事が出来るか分かりませんが、体力の続く限り巡視活動に携わりたいと考えています。

【続き】



田代岳から望む冬の藤里駒ヶ岳



七座山展望台から 凍結の米代川



七座山 2023 元旦登山



(発行)林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター

TEL:0185-79-1003

「白神通信」QRコードはコチラ→

<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/huzisato/>



東北森林管理局広報
「みどりの東北」
QRコードはコチラ →



藤里森林生態系保全センター
ホームページ QRコードはコチラ →

